

(添付資料 1)

最優秀賞・文部科学大臣賞

人の気持ちに寄り添える人に

新潟県立長岡聾学校

1年 三五 美波

いつの頃からでしょうか。私は育児に悩むお母さんが、自分の子どもを傷つけてしまう事件を、ニュースや新聞で目にするようになりました。実は私の好きなドラマ『コウノドリ』にも似たような話がありました。出産後うつ病になったお母さんが、病院の屋上から飛び降り自殺をしようと、幸い医師に止められて命が助かったというお話です。そして、この時母親の話を一生懸命聞いていたのが「助産師」でした。母親の目を見つめ、力強く、そして優しく気持ちを聞こうとする助産師。母親がこの後少しでも楽になるようにと、いろいろな専門機関とつなごうとする助産師。私はこの助産師さんの、熱意と温かさ知識の多さに強く憧れました。私もこんな助産師になりたい、母親のつらい気持ちに寄り添える助産師になりたい、と強く思ったのです。

では、私の希望をかなえるにはどうしたらよいでしょう。まず一つ目は進路です。助産師になるためには看護師資格を取得しなければなりません。ですから、短大や大学で勉強した後、看護師の国家試験に合格し、また助産師養成課程で学んだ後、助産師の国家試験に合格しなければなりません。ですから私は、受験に必要な科目をしっかりと学習する必要があります。しかし、今私が通っている聾学校の高等部には普通科がありません。そこで私は今、普通科のある他県の聾学校に進学したいと考えています。しかし、その聾学校はとてもレベルが高いので、私は今、苦手な理系の勉強にも力を入れて、2年後の受験に向けて積極的に学習に取り組んでいます。

二つ目はコミュニケーション力を身に付けることです。なぜなら、学んだ知識や助言を困っているお母さんたちに受け入れてもらうためには豊かな人間性が必要だと思うからです。助産師がいくら寄り添おうとしても、お母さんに心を開いてもらえなければどんな言葉も情報も届きません。ですからコミュニケーション力は学力以上に大切な私の課題だと思います。他県の聾学校では、全国から集まった生徒と一緒に寄宿舎生活を送ります。私は今でも寄宿舎で生活していますが、幼稚部から一緒だったなじみのある長岡聾学校の環境とはわけが違います。週末に家族に会うこともできません。初めての仲間との3年間の集団生活は、大変だろうけれど、積極的に友達に声を掛けてコミュニケーショ

ン力を高めたいと思っています。そのために、私は今から、伝える力と聞く力を付ける練習をしたいと思います。今の私のクラスは生徒が3人しかいませんが、その分、一人一人とたくさん話をすることができます。2学期からは、上級生にも自分から積極的に声を掛けていきたいと思っています。先生方とも学校や寄宿舎で毎日たくさん話ができるので、健聴者との会話も楽しみたいと思います。そして、話す時は、相手の表情、顔色、視線などをよく見て、相手が今どんなことを考えているのだろう、どんな気持ちなのだろうと想像してみようと思います。私は電話が苦手なので、対面を大切にしていきたいと思っています。

そして三つ目は、世の中のことを知ることです。なぜ少子化が進むのか、私たちはこの環境の中で子どもを産むのか、産まないのか、産んだらどんなことが待っているのか、さまざまな情報を捉えていきたいです。『コウノドリ』の助産師さんは、自分だけの力では足りない部分を、きちんと他の専門機関とつなげて説明していました。一人の力には限りがあります。情報がなかったせいで、妊娠を諦めたり、命が失われたりしないようにするのも助産師の仕事だと私は思います。

一つの新しい命が生まれるということは、多くの人に力を与えることです。だからこそ、お産には何十人もの方が寄り添いながら関わっているのです。小さく生まれた私が、今ここに生きているのも産婦人科、新生児科、祖父・祖母、叔父・叔母のおかげです。母の職場復帰も弟の誕生も全てたくさんの方々が寄り添ってくれたおかげだと聞いて育ちました。私はたくさんの方の手を借りてここまで育つことができたととても幸せです。お産は他のことと違って産める期間に限りがあります。あの時産んでおけばよかったと後悔する人が一人でも減りますように、冒頭のような悲しい事件を減らせる私になれますように、後悔しないように、今の自分を私は頑張ります。